

講演録

「民主主義とリーダーシップ、独裁主義とボスシップ」

日時： 2003年11月20日

場所： 帝国ホテル

講師： 朝吹誠氏 リーダーシップNPO設立発起人

1. 始めに（政策・世論と投票率）

今回、民主党の議席が137議席から177議席まで40議席増やした。これは民主党がいち早く真の選挙公約、つまりマニフェストを導入したからだと思う。

今回の選挙では、その後の調査で国民の約40数%がマニフェストを参考にして投票したとされ、約70%が2大政党化を望ましいと考える…という世論だった。では、何故2大政党化を実現できる可能性を秘めた今回の選挙の投票率が59.86%と戦後ワースト第2位だったのか？それは、与党が野党と政権交代せず戦後何十年も続く政治はボス（独裁）政治に傾きやすく、腐敗しやすいからである。与党の政治家がすべて利権を武器にするボスではないが、ボスになる誘惑は強い。ボスになり利権へのアクセスを持つ与党政治家と利権に群がる子分である与党に投票する団体・企業や個々の選挙民との間に、利害関係ができ、親分子分の主従関係が結ばれてしまう。野党が今回、提唱したようにマニフェストを基準に投票する場合、利害関係・主従関係と離れた観点で誰にどの党に投票するかを投票者は政策で選択できる。マニフェストを基準にせず投票する場合は、ボスから得る損（鞭）・得（飴）勘定が基準となってしまう。

一方、投票率を低めた無党派層と呼ばれる人達は、与党議員との損得（利権）関係の蚊帳の外に置かれた人達で、「政治を変える」というより、与党に入れても野党に入れても

何の利益・得も得られないと思ひ、投票しなくとも何の損も被らないので、ニヒリズムのまま投票所まで行くエネルギーが出なかった。晴れならレジャーに行くし、雨なら家でテレビを見る。だから無党派層の票を得るには曇り日が良いと言われる。

しかし、このような国民の意識では政治への監視は行き届かず、日本のは政治は全く良くならない。選挙民を投票所まで行かせるエネルギーを掘り起こすには、日本国民の意識をボスシップ及び無気力からリーダーシップに変革しないかぎり不可能だ。何故なら、リーダーは、損得勘定・利害関係から離れた、地球規模問題・人類・国・社会への貢献を自己の言動のエネルギー源とするから、真に日本国のために自分の時間とエネルギーと交通費を払って投票所に行くからだ。

2. ボスは家庭を含めて一組織に一人しか存在できない

ボスは一組織に一人しか存在できない。以前のイラクであったならフセイン元大統領一人、北朝鮮ならキム・ジョンイル一人である。サル山のボスも一匹しか存在できない。よく、ボスはナンバー2を次々と粛清する…と言われるが、その理由は、類は友を呼ぶ

で、ナンバーワンの大ボスの下には中ボス、子ボスと続き、ナンバー2に上った中ボスは野心マンマンでナンバーワンの大ボスを下克上で狙うからで、ナンバー1ボスはやられる前にナンバー2ボスをやってしまうのである。

一方、リーダーは1つの組織に全員、存在できる。何故なら、リーダーはお配りした資料でお分かりのように、人のため、地球のために下働きをし、野心がなく、頭を下げ、謙虚で、素直で、感謝し、自分から連絡し、他に優しくするので、ナンバー2のポストにリーダー的メンバーが昇ってきててもナンバー1のポスト狙うという野心はなく、トップに位置する上司は安心していられる。部下も同様に安心して働ける。故に、リーダーシップの世界では、「全員リーダー、全員メンバー」を実現することが出来る。

3. 家庭内暴力・幼児虐待から犯罪は広がる

社会の最小単位の組織は家庭である。その家庭内でボス争いが世界中で起こっている。大抵は金力・腕力で勝る夫がボスになり、金力・腕力で弱い妻を金と暴力で支配しようとするDV事件が多い（男女、逆の場合も少数ケースだが起こっている）。暴力を受けた妻は、今度自分より弱い幼児に対してストレス発散（復讐など）の為、無自覚に虐待をしてしまう。歴史的にも、現在世界的にも、幼児期に虐待を受けた人間は、その後、歴史に残る暴君つまり独裁者になっているし、世界各地で大量殺人事件の犯人になっている。日本で起こっている身近なニュースである、中学生による暴行殺人事件やその他の凶悪事件では、犯人の育ちの中で受けた虐待が問題提起されている。フロイドが指摘したように幼児期におけるPTSDの影響は計り知れなく大きい。

講義や講演の場で、「この中で両親や祖父祖母の間で、または自分や兄弟が家庭内暴力に遭った人、または配偶者に暴力を振るった人はいますか？」とお聞きすると、ほとんどの人が手を上げる。

4. リーダーとボスの違い

お配りした資料の中で、リーダーとボスの違いを見て頂きたい。このように対比すると違いがよく分かる。リーダーの意識とボスの意識は鏡に映る映像のように正反対で、事態に対する、人に対する、世界に対する受信・思考・発信が正反対になる。リーダーとボスの言動で同じパターンで似ている…と見える場合があるとしたら、それは、ボスが自分より金力・権力・暴力が上の人間に対して、従属する意識で子分として親分に対し、謙虚に素直に丁重に振舞うだけで、リーダーが本質的に人間に対する畏敬の念を持って謙虚に素直に感謝の心で丁重にするのとは意識上、質がまったく異なる。

5. トップを目指すときに起こるリーダーシップとボスシップの混同

トップ（長・頭という肩書きが付く地位）になったところで、『自分はリーダーになった…』と勘違いする人が多い。このような勘違いをする人は、トップ（長・頭）になるとほとんどがリーダーではなくボスになってしまう。最も顕著で典型的な例が日本の政界で、政治家になること、赤絨毯を踏むこと、議員バッジを付けること、イコール偉くなったこと、即ち『ようやく威張れるようになった…』と威張り始める人が多い。

私の昔からの友人で政治家になった途端、態度が変わった人間も何人かいた。リーダーを目指す事、リーダーになる事に、肩書きは要らない。長という字が名刺に無くともリーダーになれる。リーダーになるには今、この瞬間から誰でもなれる。一方、ボスにはすぐに誰でもなれるわけではない。何故なら、ボスには支配する人、従属する人、つまり子分が必要だからである。ゆえにボス思考の人間は、学校のと時から子分をせっせと作り始め、家庭を作っても妻や子供を自分の支配下に置き始める。

6. 感謝される人が偉いか、感謝する人が偉いのか？

では、何故、誰でも今すぐリーダーになれるのだろうか？何故なら、リーダーは、人に貢献し、人より下働きをし、人に感謝し、人に頭を下げ、人に自ら連絡を取る人間を指すので、決意し実行さえすれば誰でもすぐにリーダーになれるからだ。

ここで一つ、陥り易い錯覚の一例をあげたい。

世界的な傾向として、頭を下げられたり、感謝されたり、尊敬される方が偉い…と、勘違いしている人が実に多いが、「実るほど頭の下がる稲穂かな…」と諺にあるように、本来は古今東西を問わず、人を存在として尊敬し、人に感謝し、人に頭を下げる人の方が偉い。

やくざやマフィアの親分は典型的なボスだが、最近聞いた面白い話で、やくざの親分がよく使うフレーズがあるそうで、「最近あいつ（子分の事だが）から連絡が無いな…」と側近に言うと、側近がその子分に連絡して「おい、親分が最近連絡してこないと言ってるぞ！」と伝え、子分は慌てて親分に連絡するそうだ。ここでも、『連絡される方が偉い…』というボスシブの認識が現れている。連絡というのは、『ほうれんそう・報告連絡相談』とよく言われるように、大切なコミュニケーションの一つで、コンサルタントが業務改善の為のアドバイスとして先ず第一に『報連相の実践』をあげる。つまり、連絡をする人間が自らの問題解決や目標達成を早く実現できるので、報連相をサボったり、人から報連相がくることが偉いと錯覚して人からの連絡を待っていると、自らの問題解決と目標達成が遅くなるだけなのである。積極的に自ら連絡する行為はリーダーの資質として欠かせないもので、連絡する方が本来は偉い事が証明できる。報告連絡相談する人、つまりコミュニケーションがまめな人が、恋愛を含め自らの夢や仕事の目標を達成し、自分の公私を含めた問題を解決できる。

7. 20世紀は高IQ・低EQでナンバー・ワンを争ったボスの時代

さて、何故、人類はこんなにもボス思考になってしまったのだろうか？ボスは『飴と鞭』つまり『金力と暴力』という手段で自分の野心、すなわち『人を支配すること』を実現しようとする思考で、恵まれない幼児期を送ったネロやヒットラーなど、多くの人がこの罠にはまってしまった。

20世紀に入って、富や軍事力を独り占めにしていた帝国主義や王制、封建制度、中央集権の一党独裁などの国はほとんど無くなったが、トップ・長、つまり支配者になれる人の条件が約100年前に米国で開発されたIQにとって代わられた。IQは記憶力の世界だが、IQの高い人間、つまり大量の知識を覚えていられる人間がトップの大学に進み、トップの役所や大企業に進むことが出来た。しかし、高IQのエリート（将来を約束された…という意味）にもかかわらず、暴力沙汰や賄賂や不倫など、本業以外の問題で失脚する人が続出したことから、人生の成功者の条件が何か違うのではないかと疑問が出て、「EQ・感情の質」の分野の研究が進んだ。

EQのシートをご覧いただきたいが、IQが高くともEQが低いトップ、つまりボスはほとんどが右に記されているようにネガティブ思考で、すぐ感情を害す。「害する」というように、医学的にも健康を害し、人の心や健康にまでストレスを与えて害す。知能指数の高さを悪用して人事などで人を脅し、人を支配しようとするのも害の一つである。

8. 映像・音響（映画・テレビ・ゲーム）メディアの影響力と現状

このようなボス思考、ネガティブ思考は映画やテレビ番組・テレビゲームによって一層、エスカレートしている。

グローバルに影響を与えているハリウッド映画で言えば、全世界でヒットするほとんどの作品は、ランボーという文字通り乱暴者を英雄としたスタローンや、またはヴァンダム、今回カルフォルニア州知事になったシュワルツネッガーなどの筋力を誇張したアクション・スターに代表される「悪人の暴力により勝る筋肉とより強力な銃器の暴力で正義が勝つ」映画がヒットする。関西で柔術の勉強をし、関西弁が流暢なセガールも、本人はチベット仏教徒で平和主義・菜食主義と言っているが、出演する映画は暴力解決型映画である。日本のアニメとテレビゲームからヒントを得てグローバルに大ヒットしている『マトリックス』も同様である。数年前、米国では高校生が学園内で乱射事件を起こして逮捕されたが、その犯人が明白にディカプリオ主演の映画から影響を受けたと言っている。

平和と正義の具現には悪人よりも凶暴な暴力が必要というボス思考・暴力礼賛思考が、残念ながら未だ大勢を占めている。

スピルバーグ監督など極少数の監督の作品、つまり「人間と異なった生命」との出会い、つまり「異文化交流から生まれる友情・愛情」を描いた「E.T」や「未知との遭遇」、少数民族・弱者であったユダヤ人をボス・独裁者であったナチからの殺戮から助ける「シンドラーのリスト」などはリーダーシップの大切さ、リーダーの必要性を描いている。同様に Coppola 監督のゴッドファーザーが高い評価を受けたのは、暴力団であるマフィアの人生を描いた脚本だが、第一話のマーロン・ブロンドが「ボスからリーダーの道」を歩んだ人生を描き、マーロン・ブロンド死後、ボスの道を歩み始めたアル・パチーノが最終シリーズで自分の最愛の孫娘が射殺され、「暴力の連鎖」がいかに悲劇を産み続けるかを見事に描いたからである。ボスの道が如何に悲劇を生むか、暴力が如何に悲劇を生むかを、映像で啓蒙する作品こそ必要である。

現時点では、残念ながら、日々、世界中の子供たちに、正義が悪に勝つには、『暴力・武器で悪より強くなる必要がある…』とのメッセージ・教育・プロパガンダをメディアを通して行っている状態で、事態は深刻だ。

9. 第三期ミレニアムはどのような世界か？

2000年に入ったとき世界は新しいミレニアムを祝ったが、これは欧米優位の国際情勢からキリスト教国が使用してきた暦のグローバル・デファクト・スタンダードで、もし仏教が世界情勢の中で優位であったら、日本が戦前使用していた皇紀と同じくらいの2千5～6百年…と数えるのだろう。

人類文明が誕生したBCミレニアムではグローバルに多神教で、ゆえにギリシャ文明のアレキサンダー大王がアジアと北アフリカに進出した時も各地の宗教とギリシャ神話の神々とを共存させ、多様性を尊重した。ローマ文明もギリシャから受け継いだ多神教で、進出した地域の進行を認めたから、広大な植民地を獲得できた…とされている。エジプトもメソポタミヤもインドも中国も古代5大文明は皆、多神教だった。

唯一、ユダヤ教だけはBCミレニアムから一神教だったが、第1期および2期ミレニアムでキリスト教とイスラム教という一神教が出現し、イスラエルとパレスチナ紛争も含めて愛と平和を説く宗教であるにもかかわらず、宗教ゆえに殺し合いが未だに続いている。キリスト教もカソリックとプロテスタントの間で大量虐殺が行われた。

日本人の宗教観は、日本古来の神道が天照大神という一神教と並立して八百神やおろずのかみを祀る多神教である。「万物に霊が宿る」ともいわれ、非常にフレキシブルである。

よく、日本人の宗教観を表す例として、正月には神社に行くので神道、お盆にはお墓参りでお寺に行くので仏教、12月にはクリスマスを祝うのでキリスト教、また、生まれた時にはお宮参りをするので神道、結婚する時には教会で式を挙げるのでキリスト教、死んだらお寺のお墓に入るので仏教…と揶揄されるが、実は日本人が多神教である事を

指している。他方、仏教も多神教と言え、仏も釈迦牟尼仏だけでなく阿弥陀仏も在り、如来は釈迦如来だけでなく薬師如来もあり、菩薩も観音菩薩や文殊菩薩など多士多才で、まさに多神教だ。日本初の憲法を公布し日本の基礎を作った名実ともに日本のリーダーの一人の聖徳太子は、現在の日本憲法と奇しくも同様、第一に平和を唱えたが、その『聖徳太子は天皇家に生まれたので生まれた時は神道だった。そして少年時代に仏教に皈依し寺院を建設したが、同じ日に死亡した蘇我家出身でない愛妻と側近の泰氏の影響で晩年は景教（キリスト教の漢字当て）に改宗し、それが原因で暗殺された…』という説がある。日本の現状と不思議な一致が見られる。

日本は、多神教的宗教観をもって、世界各国に既存する宗教を平和共存させる第3期ミレニアム地球文明に大きく寄与することが出来る。つまり多神教的宗教観の分野でリーダーシップを発揮することが出来るだろう。

これからの千年紀は、21世紀中には無理だと思うが、何百年もの地球人リーダーの努力により、古代文明の特徴であった多神教的信仰と先端技術が補足しあい、ボスを脱皮したリーダーによって、人類文明が真に調和して行くミレニアムになるだろう。

10. グローバル・デファクト・スタンダードが国際世論を作る

グローバル・デファクト・スタンダードとは、日本発の国際標準として有名なビデオテープのVHS、語学のグローバル・デファクト・スタンダードの英語、ファッションでは背広とネクタイ…などがある。

国際関係における現時点のグローバル・デファクト・スタンダードは、国連尊重と米軍を中心とした多国籍軍による武力行使だ。国連の創設目的である集団自衛権発動の為の国連軍は未だ結成されていない。犯罪的独裁国家やテロ支援国家が存在する以上、犯罪組織に対し警察が捜査や手入れをするように、国連軍による地球規模の警察力は必要である。その代役を現在、ボランティアで米軍が引き受けている状況だ。

他方、国連や国際機関を尊重する方向として、人類の理想の追求がある。これは常に一人のリーダーの誕生から世界へと、大きなうねりとして広がる性質を持っている。

『人類の理想』のデファクト・グローバル・スタンダードは、国連が提唱するように、宗教・文化・人種の多様性が重んじられ、基本的人権と福祉が尊重され、テロを含めた犯罪が撲滅され、国連加盟国すべての民主主義による政権交代システムの実現である。この意味からも、日本での政権交代は唯一、一回しか戦後では実現していないので、出来るだけ早い時期での政権交代が必要だ。

11. 21世紀はEQ・SQを高めるオンリーワンのリーダーの時代

現在の世界を見ると、『人間は肉体だけで存在しておらず、永遠の生命を抱いた魂を内に

秘めている…』という認識がグローバル・デファクト・スタンダードになっている。そのためには、私達一人一人が、日々EQを高め、SQ（ソウル・クエスト）と呼んでいる、魂に目覚める努力が必要で、ナンバーワンという競争原理に基づくボス思考でなく、人類全員が一人一人の大切な人生を作り上げるオンリーワンのリーダーを目指すのが21世紀の人類の課題だと思う。そうすれば、世界は紛れも無く、政権交代で実現する『真の民主主義』が、グローバル・デファクト・スタンダードになるだろう。

12. リーダーシップNPO設立の意義

大竹リーダーシップNPO設立準備委員長のもと、2002年からリーダーシップNPOの設立準備に入っている。ボランティア・メンバーで作っているのですが、遅々とした歩みだが、ボス思考で無い真のリーダーを目指すメンバーと共に、大竹会長のお言葉で現せば『善いメンバーと共に…』、慎重に確実に進めている。皆様のご協力とご参加をお願いしたい。

13. 終わりに（維新の志士と七生報国）

最後になったが、維新の志士は『七たび生まれ変わっても国に報いたい！』という志を持って、日本の変革に当たった。リーダーに必要な、「七転八倒から七転八起に目覚める」能力だ。『七たび生まれ変わって自分の問題解決と目標達成を成し遂げる志』を抱き、政権交代を重ねる中で、日本に真の民主主義を築き上げられる。そのときに、日本は初めて他のアジア諸国から過去のボス体制が許され、アジアにおけるリーダーとして認められるようになるだろう。既に日本はサミット参加国として、また国連及び国際機関における主要分担金支払い国として、先進国の中では十分に役割を果たしているのである。国連の常任理事国になる段階も含めて、これからは日本国民一人一人がボスからリーダーに脱皮することが求められる時代である。